

【ねがいましては】

平成17年1月26日

第173号

KYOWA SCHOOL

「希望」

先日、新聞に目をやっていると、15歳の少女からの投書。「私は将来、学校の先生になりたいと思っています。(中省略)私の学校の先生は、生徒が間違っていることをした時、『間違っている』と言って注意してくれます。正しいことをした時は褒めてくれたり、『当たり前だ』と言ってくれたりします。私はそんな先生を尊敬しています。私は、正しいことは正しい、間違っていることは間違っている、と言えるような、立派な人になりたいと思っています。」 なんと頼もしい言葉。「そうなんだよ、これなんだよ。」と私はひとりブツブツ・・・。

私は、最も子供たちとのふれ合いの中で難しいものを挙げよと聞かれれば、「叱ること」とすかさず言うと思うのです。自分の真剣な気持ちを誤解なく伝えなければならない。誤解があつては何の意味もなくなってしまう。そのように思っているからです。

私の勝手な解釈なのですが、叱ると怒るは違うと思っております。「叱る」は、相手の気持ちのみに全神経が通っているのに対し、「怒る」は、怒る人の感情がしっかりと入り込みます。気分で怒っているのですね。

今のお母様方は以前からすると、「叱る」が減少しているように感じます。自分の立場や利害などが複雑に絡み合い「怒る」になっている方が多いように思うのです。例えば、息子の成績が落ちたということで怒ります。その怒っている途中に、同じクラスの〇〇さんは上がったのに・・・。これ母側の立場からくる感情的怒り・・・。もうひとつ、「お母さん、叱らないからしっかり勉強してね。」これも心ではすでに怒っています。さらにもうひとつ、「私の小さい頃も、たいした成績ではなかったのだから言えないわ。」これちょっと責任感が無いのでは・・・。なぜなら、自分のものさしにお子さんをあてはめています。お子さんはひとりの立派な「人」・・・、当人にとっては親の過去の成績などどうでも良いことなのです。大切なのは今。

さてそこで、先ほどの15歳の女の子。きっと、「安心感」で包まれていると思うのです。誰でもものごとの良し悪しなどはわかるもの。その時にしっかりとけじめをつける意味で、褒め、叱る。きっと先生が発言なさるたびに、「そうだ、その通り。」とわくわくしながら相槌を打っていると思うのです。

今の世の中、町中を歩いていたり、車で走っていたり、するとあちらこちらで「おやっ」という光景に出くわします。信号無視、ごみのポイ捨て、無灯火の自転車、「いらっしやいませ」も言えない若い店員さん。そのどれもが、いざ悪いことであっても、誰も注意をするわけでもないし、皆しらんぷりを決め込んでいる・・・。(わたしもその中のひとりと感じます) 子供たちにとっては、せめて学校くらいは・・・。と思うのもムリは無いと思うのです。が、現実、学校の中では・・・。これを読んでいる生徒さんたちの日々ご覧になっているとおりです。この新聞へ投書なさった方の先生のような方がたくさん現れるよう願っております。そして、この子が思ったような方が、お母さんであり、お父さんであったなら・・・。きっとそのような子たちの家庭は、温かい、ほのぼのとした、安心感に包まれたものに違いありません。まさに理想の家族です。なぜならその先生を見て「先生になりたい」と思ったのなら、同様にお母さんみたいなお母さんになりたい、お父さんみたいなお父さんになりたい、と思えるような親だっただけでなく、いいですね。

私は日頃、安心できる教室、落ち着ける教室、第二の我が家と思える教室を夢見ております。それが本物の真の『学校』だと思うからです。

自分の身近に見つけることの出来る「希望」が思うように見出せない今の世の中、この子の感じた貴重な感情を、わたしもここに通う子たちの多くに感じさせてやりたいと思いました。

「希望」っていいですね。なんの迷いもなく、ひたすら夢に向かって歩く姿。不安など全くない、なぜならその子には大きな安心を与えることの出来る「人」という存在がある。その存在がご両親であっていただきたいと思います。そのまま私は、その気持ちをここに通う子たち全員に感じていただけるよう、ひたむきに歩く。「安心」が、どれだけ人の気持ちを「勇気」あるものにするか。「安心」が、どれだけ「心の力」を生み出すか。それには丸裸のわたしが、真っ向から子供たちの心と向き合わねばならないと感じます。

先日、あるお母様からこんなことを言われました。「ここは、フリースクールのようなですね。」ありがたいお言葉でした。何よりも『こころ』を最優先して今まで歩んできたことが、このようなお言葉に変化するとは・・・。まったく思ってもいなかった形容をいただき、ますますこの教室の色がはっきりとしてきたように思います。

ものごとの良し悪し、「小さな勇気」をご利用ください。お子さんのきれいな瞳に出会えるはずです。

2月の予定

中学生の皆さん、受験生の皆さん、期末テスト・高校受験が近づいています。「くりラン」予定しています。詳しくは別にお手紙をお渡しします。